認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー
（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入口正面、ケアステーションの入口とデスクに掲示し、日々目を通し周知徹底を図っている。また異動や新規職員には理念を説明している。	家族には利用契約時に重要事項説明書と合わせ理念を説明している。理念と年度事業計画を玄関と事務所に掲示し職員間の共有と実践に努めている。また、新人職員、異動職員に対しては細かく説明している。理念にそぐわない言動が職員に見られた場合には管理者が次に繋がるように共に振り返り、アドバイスをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	豊野東小の運動会や音楽会に招待されたり、各種行事には地域住民の方を招待したり、職員やホーム利用者も地域のお祭りに参加している。またボランティアも定期的にお願いしオレンジカフェにも出向いている。	区費を納め地域の一員として活動している。回覧板を回していただき地域の情報を得ると共に当ホームの「泉平ファミリー新聞」を隣組全戸に配布し活動を紹介している。地域のふれあい広場には小学校の生徒と合同で作品を作り出品している。また、ホームのボランティア担当の手配で「朗読」、「いきいき体操」、「外出」等各種ボランティアが定期的に来訪し利用者と交流している。来訪者があると利用者の前で紹介し、一日、馴染めるよう心掛けている。更に、福祉専門学校の実習生の受け入れも引き続き行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月グループホーム新聞を泉平地区全戸に配布している。また、家族会主催の認知症サポーター講座に地域の方も参加して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、会議を開き家族代表、民生委員、組長さん、衣料品店主など地域の方などに参加していただき様々な意見交換をしている。また各種行事にも参加して頂いている。	家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、市介護保険課職員、地域の商店主などに出席いただき年6回実施している。年度替りには運営推進会議の意義を話し理解を頂いている。地域交流や家族会、サポーター養成講座等の報告、各ユニットからの活動報告、意見交換等が行われ、出席者から率直な意見・助言等を頂き運営に役立てている。更にメンバーには毎月「泉平ファミリー新聞」を配布し活動を紹介している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進委員になって頂き会議に参加して頂いている。介護認定困難事例等の相談にも乗って頂いている。安心相談委員も月１回来所して頂いている。	生活保護等必要な事柄について市介護保険課に相談している。認知症サポーター養成講座は地域包括支援センターと連携を取り実施している。市のあんしん(介護)相談員も月1回来訪し利用者との交流の時を持ち書面で報告を頂いている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて行い家族には結果を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い利用者様がおり、無断外等の事故があったため家族と相談し予防の為センサーコールを使用、施錠しないケアに取り組んでいる。（夜間の転倒も同様にコールを使用）	法人が実施する身体拘束、虐待防止の研修会に参加し、また、ホーム内の会議でも話し合い拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関、内ドアとも開錠されている。チャイムが設置されているが職員が玄関に目配りするようにしている。離設傾向のある利用者もいるが寄り添い話をし、ホームの周りを散歩し対応している。転倒防止のため家族と相談しセンサーコールを使用している方がいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全体で研修を受けている。再度会議等で周知徹底をしている。また、日常的に職員同士注意し振り返りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の状況に応じた制度について説明をしている。また後見人制度についての研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者の事前面接に出向き、出来る限りの情報をお聞きし、説明もさせて頂いている。また見学や体験の機会を設け納得された上で契約をしてる。料金改定についてもその都度説明し、経済的不安についても相談に応じている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見を傾聴したり、日頃面会時等家族にお話を聞かせて頂いている。苦情箱の設置や苦情解決委員会を開催している。苦情が出た時には納得がいくよう対応している。	ほとんどの利用者は意思表示出来るが一部困難な方には手話を交えながら希望を汲み取っている。家族の来訪は様々であるが全家族の来訪がある。家族会も敬老会、夏祭り、新年会の年3回行われ職員手作りのバイキング料理を楽しんでいる。また、家族会主体でホーム内部の一斉清掃も行われ家族との繋がりの良さが感じられる。毎月、「泉平ファミリー新聞」を送り利用者の様子を知らせている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	りんどう、しらかば合同会議を実施してお互いの情報交換や困難事例等話し合いをしている。主任は気軽に意見や提案が言えるよう雰囲気作りに心掛けている。	事前に職員の要望や提案を聞き、月1回ユニット会議を開催している。仕事内容や業務改善等について話し合い、サービスの向上に役立てている。年3回、2ユニットの合同会議を行い、ユニット間の情報共有や研修等を行いスキルアップに役立てている。管理者は常日頃から職員が意見を言い易い環境作りに心掛け、気軽に悩み・意見等を聞いている。2年に1回職員の誕生日休暇が有り、働き易い環境作りにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に沿った勤務体制で、資格経験等を考慮し、家庭の状況に於いても配慮に努めている。また誕生日休暇や交流会を行い職員のリフレッシュを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修や、施設内での勉強会に参加している。また、研修報告は定例の会議において伝達研修としている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の3グループホームで毎月管理者会議を行い、情報交換や交換研修も行いサービスの向上に向けて取り組みをしている。善光寺グループネットの会員で研修に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時には本人、家族からの情報と前担当のケアマネさんにも情報を得て相手を理解し、本人の訴えを傾聴し更に理解することを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや希望を理解し、家族と本人が安心できる支援作りに努めている。また、家族が気軽に相談しやすい雰囲気作りにも心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に家族と本人に面接を行い、しっかりと把握した上で対応に努めている。また変化が見られたときには必ず家族に報告し、本人の方向性を出せるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを常に忘れずに、その人のレベルに応じた活動が一緒にできるようにしている。（畑作り、縫い物、食事の下ごしらえ等）		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所の際には状況を報告し、安心した生活が送れるよう、家族と共に見守りながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンだけでなく、兄弟、孫、親戚、知人友人等が気軽に来所できる雰囲気作りを心掛け、面会時には居室で一緒にお茶を飲みながら自由に過ごして頂いている。	近所の方や同級生の来訪がある。また、2ヶ月に1回行われるバイキング料理の際には併設施設の友人なども来訪され歓談している。馴染みの美容院や買い物等にも家族の協力をいただきながら出掛けている。利用者毎の繋がりも職員が中に入り良好な関係作りがされており、楽しい日々を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も一緒にお茶を飲んだりすることにより楽しく会話ができるようにしている。また散歩や入浴も気の合う人同士の関係も大切にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族から電話や訪問がありその後の相談に応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをできる限り実現できるように、本人や家族に話を聞かせて頂いている。	基本的には利用者に問い掛け、希望を汲み取るよう努めている。会話の中で表情を見ていつもと違うかどうかを判断し支援に取り組んでおり、1対1になる居室の中で話をするようにしている。訪問時にもホールの中や随所に置かれた長椅子で話をする利用者と職員の姿が見られた。利用者の尊厳については事ある毎に話し合い、職員間の意識統一に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等に今までの生活歴を支障のない範囲で聞かせて頂いている。また本人にも覚えている範囲で聞かせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝決まった時間にバイタルチェックを行っている。１人ひとりの状態は「いつもと違う」気づきも大切にしている。できることややりたいこと等本人のペースでやってもらっている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議で必要性がある場合には、職員全員と話し合い本人に沿ったプランを作成している。家族来所時や家族会の時にも家族としての意向をお聞きしている。	職員2名で3名の利用者を担当し、利用者へのケアの仕方が偏らないよう心掛け、6ヶ月～1年で見直しを行い変化があった時には随時見直している。月1回の会議でモニタリングを行い、担当とリーダーでプランを作成している。家族には来訪時に気になることを提案していただきプラン作成に反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌の記録、個別ケースには更に詳しく記録している。申し送りノートを活用し日々目を通し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭の事情や家族関係を考慮し一人ひとりに合った支援を心掛けている。また特養申込み等家族の相談にも応じている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や学校のボランティアの受け入れ、豊野東小4年生との交流会は開所当時から行っている。また地域の方も行事に参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で2～3回の往診にて、健康状態を診て頂いている。変化があった場合には医師に連絡し受診している。家族にも連絡、相談をし希望する病院に通院も行っている。	全利用者がホーム協力医の月2～3回の往診を受けている。緊急の場合に備えトイレや浴室にも緊急連絡先を明示し、また、個人ファイルに細かく状況を纏めることにより緊急時に備えている。隣接施設の看護師が必要な時に来訪し健康管理を行い、協力医との24時間オンコール体制も整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している施設の看護師に相談したり、かかりつけ医の看護師に状況を伝え相談を持ちかけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携は取れている。入院時には職員ができるだけお見舞いに行き、家族と情報交換しながら回復状態と速やかな退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルに向け、本人や家族の意見を尊重しながら、安心して最後を迎えることができるよう、医療機関とも連携を持ちながら対応している。家族会、推進委員会にもターミナル、看取りについての説明や方針をお伝えしている。	利用者の尊厳を大切にする中で終末期ケアについてホームとして出来ることを職員間で話し合っている。看取りに直面した時には本人や家族の気持ちを受け止めながら協力医と連携を取り、ホームとして出来る限りの支援に取り組んでいる。開設以来5名の利用者の看取りを家族と共に行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、緊急時にも速やかに対応できるよう備えている・異動職員や新規職員が入った場合には、緊急連絡網の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の施設と地域住民と防災協定を結んでおり、合同で防災訓練を行っている。災害時に備えて、非常食、飲料水、防寒物品を用意している。避難用ネーム、同色のタオルを使い利用者の状況が分かるようにしている。	年2回、6月と10月、隣接の特別養護老人ホームと合同で防災訓練を行っている。消防署員も参加し、消火訓練、避難訓練、通報訓練を行っている。別にミニ訓練で夜間想定も実施している。利用者も全員が参加し、「名前、歩行状態、連絡先」を示した名札としらかばユニットはブルー、りんどうユニットはピンクのタオルを首に掛け緊急時に備えている。備蓄も水、食料品等を3～6日分確保し、更に玄関には防災用ヘルメットも準備されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し、さりげない声掛け、言葉掛けを心掛けている。またプライバシーの確保に注意し面会は居室で行ったり、日々の情報は毎日その都度記録している。	居室には入る際にはひと声掛け、親しみを込めて寄り添うよう心掛けている。トイレ介助には特に気を使い、失敗した時には回りに分からないようにお連れしている。呼び方は苗字に「さん」付けでお呼びし、同性の方が居る場合は名前「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や外出の声掛け、地域の行事の参加等、一人ひとりの状況や思いを大切にしながら決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その人の希望や思いを尊重しながら、買い物、散歩、畑仕事にも参加して頂いている。特に入浴は気の合う仲間とゆっくり入って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年齢を重ねてもいつもきれいでいたいと願う気持ちを大切にしている。（好みの洋服選びやメイク）髪のカットもなじみの美容院へ出かけたり、本人の希望に合わせて訪問カットもお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的な会話から食べたい物をお聞きし旬の食材、国産品にこだわり希望のメニューを提供している。食事の下ごしらえや後片づけ等できるお手伝いをお願いしている。ユニット間のバイキングを定期的に行っている。	介助が必要な方も数名いるがほとんどの方が自力で食事が出来る。状況に応じてキザミ等を交え対応している。お手伝いできる方も数名いて職員と準備から片付けまで行っている。献立は利用者の希望も聞いて週の中でダブらないよう気をつけている。食材は国産に限った物を使用している。年末、お彼岸等にはそば、おやき等季節に合わせた食事を出している。外出時には必ず食事を摂るようにしており、アイスクリームが好きな方も多いので近隣で有名なジェラートアイスを楽しみに出掛けることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態（きざみ、とろみ）や身体状況（血糖値、体重増加予防）に心掛け提供し、食事摂取量をチェックし記入、飲み物は多種類用意し適度な水分摂取ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操を日課とし、食後のハミガキ実施、必要な方には介助で行っている。。個々に合った磨き方の工夫、口腔状態の変化に気付くよう観察している。定期的に歯ブラシ、コップの消毒も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けでトイレ誘導したり、排泄表に記入し排泄状況の把握に努めている。失敗されても自尊心を傷つけないように処理している。特に日中と夜間のパットの大きさを調節して睡眠不足にならないようにしている。	トイレは広く掃除が行き届き綺麗で、芳香剤も置かれさわやかな雰囲気である。朝のバイタル測定時に排泄表を作成し状況の把握に努めている。食後、就寝前等に声掛けし、気持ち良く過ごしていただけるよう心掛けている。また、スムーズな排泄を促がすために食材に気を使い、牛乳、お茶、ヨーグルト、果物などを必ず摂取するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の確認が取れれば排泄表に記入している。散歩やストレッチ運動など取り入れたり、便秘予防に毎日牛乳と果物は欠かさず提供している。水分や献立にも気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日となっているが都合で入浴できない場合は他の曜日に変更し実施している。また順番や気の合う人同士が一緒に入れるよう工夫している。	浴室は広く気の合う方が2～3名で入浴している。基本的には週3回入浴を実施している。ほとんどの方が一部介助で2名の方が二人介助を必要としている。入浴拒否の方もいるが日を変えたり時間を変え対応している。「ゆず湯」、「菖蒲湯」、「リンゴ湯」等季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後はなるべく休んで頂くよう声掛けしているが本人の思いに応じている。夜間失禁のある方には時間で声掛けをしたり、失禁ラバーを使用し短時間で着替えができるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時に名前と日付を確認して本人に渡し、内服するまで見守りしている。また薬の疑問点が生じた場合には医師に問い合わせている。家族には薬説明書を送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、畑仕事、洗濯物干し、掃除などできる事を一緒にお手伝いして頂いている。毎日当番を決めて食事の挨拶やテーブル拭きをして頂いている。またテレビや歌、折り紙など余暇を自由に楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩にはお互いに声を掛けあい出掛けている。地域の催し物、四季折々の外出も計画を立てて行っている。家族との外出や外泊もして個々に楽しみを増やしている。	日常的には気軽に声を掛け合い施設の回りを散歩している。玄関前には季節の花と長椅子が置かれ外気浴を楽しんだりホームの畑で野菜作りも行っている。外出担当職員の計画で「お花見」、「紅葉狩り」、「食事会」等に出掛けている。また、火、水、土曜日の午後には職員と買い物にも出掛けている。お盆に一泊で家に帰る方や家族来訪時に一緒に食事に出掛ける利用者もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理不可の為職員管理となっている。本人から希望があれば家族と連絡を取り、話し合い対応している。入出金についてはお小遣い帳に記入し、定期的に家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から贈り物や手紙が届いた時には、お礼の電話を入れ、本人の希望も聞き電話に出て頂いている。又、手紙でお礼を送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室に神棚、床の間に掛け軸など飾って家庭と同様に味わっていただいている。玄関先には壁画絵を飾り、四季折々の季節感を取り入れている。毎月GH新聞を掲示し、外出や催し物の写真を貼りだし楽しんで頂いている。	ユニット間の広々とした中庭には芝生が一面に敷いてあり季節に合わせて「ハロウィン」の飾り付けがされていた。玄関を入ると職員を紹介したプロフィール入りの写真が掲示してあり来訪者に分かるようになっている。ホールの壁には季節に応じた飾りつけや利用者の作品、日々の活動を紹介した写真などが張られ、食事のテーブルの他、随所に長椅子も置かれ寛ぎのスペースが確保されている。空調はエアコンと床暖房完備で快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やおやつ以外にも自由にリビングで過ごされていたり、各居室にお邪魔して仲間同士でおしゃべりをして、思い思いの時間をすごしていただいている。ソファーに座り職員との会話も楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の気持ちに合わせて自宅から持って来て頂いた馴染みの物や思い出の写真など飾り、植物を育てるなど本人に合った工夫をして居心地良く過ごせるようにしている。	各居室には洗面台が備え付けられ掃除も行き届き綺麗な中で生活している。使い慣れた家具や衣装ケースが置かれ、壁には小学校児童との交流写真や家族の写真、職員から送られた誕生日のメッセージ入り色紙、行事の際の写真などが飾られ、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレには大きな文字でわかりやすく表示し、居室は本人にわかる目印をつける等工夫している。		